

令和5年度 第3回広島市感染症対策協議会

- 【日時】 令和5年7月18日（火）19:00～20:00
【場所】 広島市役所14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、
新甲 さなえ、平賀 正文、増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、
阿部 勝彦

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種について（資料1 P1～22）

- ・令和5年5月8日以降の追加接種の接種回数は166,667回、うち高齢者は151,131回（接種率49.2%）（令和5年7月9日現在）
- ・令和5年秋開始接種のワクチンについては、これまでに検討に用いた知見の他、現時点までに新たに得られた科学的知見等を踏まえ、「新型コロナウイルスワクチンの製造株に関する検討会」において、以下の結論を得た。
 - ①現在の流行の主流であるXBB.1系統に対しては、オミクロン株対応2価ワクチンでは中和抗体価の上昇が低く、移行しつつある主流流行株に対してより高い中和抗体価を誘導するためには、最も抗原性が一致したワクチンを選択することが妥当である。
 - ②我が国における流行株の主流がXBB.1系統に移行しつつあることや、XBB.1系統内に様々な変異体の抗原性の差は小さいと考えられること等を踏まえ、XBB.1系統を含有するワクチンを用いることが妥当である。
 - ③免疫刷り込み現象を理由として従来株成分を排除すべき状況ではないものの、現時点では、今後にわたり、従来株を含める必要性はないものと考えられる。
- ・同検討会からの報告等を踏まえ、令和5年6月16日に開催された第47回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会において、令和5年秋開始接種に使用するワクチンについては、XBB.1系統を含有する1価のワクチンを用いるという方針が示された。今後、最新の知見や諸外国動向等を踏まえ、秋開始接種の対象者について改めて確認を行い、秋までに結論を得ることとしている。
（委員意見）
- ・ 接種の促進に努めてほしい。

(2) オズウイルス感染症について（資料1 P23～33）

国より、2022年初夏に心筋炎で亡くなった患者について、茨城県衛生研究所と国立感染症研究所における検査の結果、オズウイルス（Oz virus）による心筋炎と診断されたことが報告されたとの情報提供があった。これまで国内のヒトにおける血清を用いた抗体検査の結果により、ヒトにおける感染の可能性が示唆されていたものの、世界的にヒトでの発症や死亡事例は確認されていなかったが、この度、ヒト感染症例（致死症例）が本邦から世界で初めて報告された。

オズウイルスは、オルソミクソウイルス科トゴトウイルス属に属するウイルスで、2018年に国内のマダニから初めて分離・同定されたウイルスである。これまでヒトを刺咬するマダニで検出されており、感染マダニの刺咬により感染する可能性が考えられるが、感染経路について現時点で確立された知見は得られていない。

本症例に関わらず、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、つつが虫病等のダニ媒介感染症については、継続して患者の発症が報告されており、マダニの多くが春から秋にかけて活動が活発になることから、山や草地などの屋外活動時には、ダニ類に咬まれないよう十分に注意が必要である。

（委員意見）

- ・ ダニ媒介感染症の予防啓発に努めてほしい。

(3) 令和4年度における本市の予防接種実施状況について（資料1 P34～44）

令和4年度における本市の予防接種実施状況をとりまとめた。

麻しん・風しんワクチン接種率は、1期が93.8%、2期が92.8%といずれも国の指針で示されている接種目標（95%）を下回った。

日本脳炎ワクチンの接種率が令和3年度に比べ大幅に増加した。令和3年度は、ワクチンの出荷調整に伴い、例年実施している4歳及び9歳への接種勧奨はがきの送付を中止したため、令和4年度に、前年度に送付できなかった年代に対しても接種勧奨はがきの送付を行ったことが要因として考えられる。

子宮頸がん予防ワクチンについては、令和4年度より接種勧奨を再開し、定期接種件数の大幅な増加はなく約7千件であったが、キャッチアップ接種としての接種件数もほぼ同数であった。

本市としては、今後も様々な機会を捉えて、引き続き予防接種に関する制度の周知及び接種勧奨に努めていく。

（委員意見）

- ・ 予防接種に関する普及啓発を行うなど、接種率の向上に向けて取り組んでほしい。

2 6月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和5年6月分	令和5年7月分
		報告日 6/5 ~7/2	報告日 7/3~7/12 現在
2類	結核	8人 (結核4人、潜在性結核4人)	2人 (結核2人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	2人(6/13、6/29)	
4類	重症熱性血小板減少症候群	1人(6/26)	
	日本紅斑熱	1人(6/28)	
	レジオネラ症	6人(6/6、6/9、6/13、6/26(2人)、6/27)	
5類	アメーバ赤痢	1人(6/12)	
	ウイルス性肝炎	2人(6/6、6/27)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2人(6/8、6/28)	1人(7/3)
	急性脳炎		1人(7/6)
	後天性免疫不全症候群	1人(6/28)	1人(7/3)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1人(6/26)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	2人(6/8、6/22)	2人(7/7、7/12)
	梅毒	24人(6/5、6/6(2人)、6/8、6/9(3人)、6/12(3人)、6/13(2人)、6/14(2人)、6/16、6/19、6/20、6/22(2人)、6/27(2人)、6/29(2人)、6/30)	15人(7/3(3人)、7/4(3人)、7/5(3人)、7/6(2人)、7/7、7/8、7/10、7/11)

()は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和5年9月19日(火) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：6月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、6月は2,288人で、前月比1.17とやや増加した。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、手足口病、ヘルパンギーナは大きく増加、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はやや増加、感染性胃腸炎はほぼ横ばい、突発性発しんはやや減少、インフルエンザ、咽頭結膜熱は大きく減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、定点把握に移行した第19週(5月8日～14日)以降、増加傾向で推移している(図1)。引き続き、手洗い、換気などの基本的な感染予防対策を行うことや、医療機関受診時、高齢者施設などを訪問する時にはマスクを着用するなど、重症化リスクが高い方を守るための行動が重要である。
- ヘルパンギーナ、手足口病は、夏季を中心に流行するウイルス性の感染症である。ヘルパンギーナは、4月下旬から増加が続いており、第27週(7月3日～9日)に定点当たり3.75人の報告があった(図2)。また、手足口病も6月下旬から増加傾向であり注意が必要である。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用は避けるなどの感染予防対策が大切である。

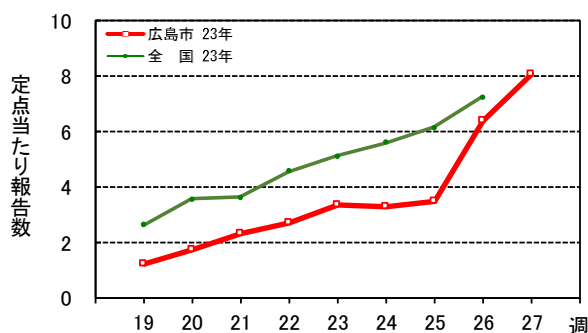


図1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況

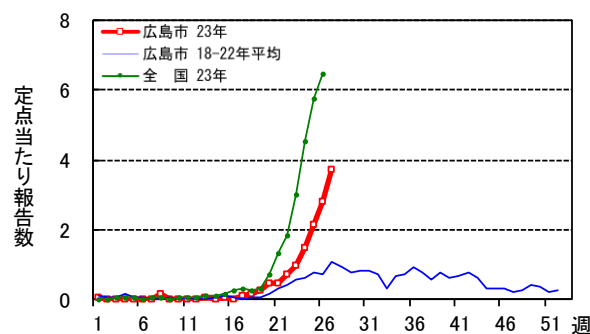


図2 ヘルパンギーナの流行状況

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3年ぶりの流行となり、第24週(6月12日～18日)に定点当たり3.79人の報告があった。その後、減少傾向に転じたものの、依然として多い状況が続いている。咳エチケットの励行や手洗いなどの感染予防対策が大切である。
なお、北部保健所管内で第23週(6月5日～11日)に警報開始基準値(定点当たり8)を上回ったため、広島県は6月15日にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令した。
- RSウイルス感染症は、第23週(6月5日～11日)に定点当たり3.71人の報告があった。その後、減少傾向に転じたものの、依然として多い状況が続いている。乳幼児、特に乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、咳等の呼吸器症状がある人との接触を避けるなどの対策をとることが大切である。
- 梅毒の今年の累計報告数は144件(7月9日現在)と多い状況である。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがある。また、妊娠している人が感染すると、胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こすことがあるので、感染予防と早期発見・早期治療が重要である。

(3) 6月の1類～5類感染症(全数報告)患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核8件(患者:4件、潜在性結核:4件)
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2件
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 1件、日本紅斑熱 1件、レジオネラ症 6件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件、ウイルス性肝炎 2件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2件、後天性免疫不全症候群 1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 2件、梅毒 24件

(4) 今後の流行予測

手足口病・・・【流行始まり】

新型コロナ(COVID-19)、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ・・・【流行中】

梅毒・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

6月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H3)型	5月	1人
インフルエンザ 感染性胃腸炎	*1 インフルエンザウイルス A(H3)型 *1 アストロウイルス	5月	1人
RSウイルス感染症	RSウイルス	4月	1人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 1型 アデノウイルス 37型	4月 5月	1人 1人
その他の呼吸器疾患（肺炎）	ライノウイルス *2 パラインフルエンザウイルス 3型 *2 ヒトボカウイルス	5月 5月	1人 1人
その他の消化器疾患（腸重積症）	*3 アデノウイルス 5型 *3 ノロウイルス GII	5月	1人

*1～3：複数病原体検出例

8人の患者から10種類のウイルス11株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H3)型2株、RSウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス1型、同5型、同37型、ノロウイルス GII、パラインフルエンザウイルス3型、ヒトボカウイルス、ライノウイルス各1株であった

5類感染症定点情報
(令和5年6月解析分)

1. 週報対象(第23週～第26週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		221	6.14		11	ヘルパンギーナ		177	7.38	
2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		596	16.56		12	流行性耳下腺炎		7	0.28	
3	RSウイルス感染症		299	12.46		13	急性出血性結膜炎		-	-	
4	咽頭結膜熱		35	1.47		14	流行性角結膜炎		17	2.14	
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		338	14.08		15	細菌性髄膜炎		-	-	
6	感染性胃腸炎		487	20.29		16	無菌性髄膜炎		1	0.14	
7	水痘		17	0.71		17	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	手足口病		50	2.09		18	クラミジア肺炎		-	-	
9	伝染性紅斑		-	-		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	
10	突発性発しん		22	0.92							

2. 月報対象(6月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		34	3.78
2	性器ヘルペスウイルス感染症		16	1.78
3	尖圭コンジローマ		10	1.11
4	淋菌感染症		12	1.33
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		20	2.86
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和5年6月分)

第23週～第26週(6月5日～7月2日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	8	62	1,200	6,735
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	1
	16 細菌性赤痢	-	-	5	17
	17 腸管出血性大腸菌感染症	2	10	444	1,099
	18 腸チフス	-	-	4	21
	19 パラチフス	-	-	1	6
	20 E型肝炎	-	1	53	308
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
四類	22 A型肝炎	-	-	3	29
	23 エキノコックス症	-	-	1	6
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	5
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	6	10
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	1
	32 エムボックス	-	-	14	180
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	1	1	18	83
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	2
	40 つつが虫病	-	-	15	104
	41 デング熱	-	-	6	34
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	1	2	50	144
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 プルセラ症	-	-	-	1
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	2	8
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	4	6
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	6	16	348	976
	62 レプトスピラ症	-	-	-	4
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
	五類	64 アメーバ赤痢	1	4	36
65 ウイルス性肝炎		2	4	21	130
66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		2	5	141	880
67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	2	25
68 急性脳炎		-	2	41	248
69 クリプトスポリジウム症		-	-	2	4
70 クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	11	76
71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	2	68	417
72 後天性免疫不全症候群		1	4	75	474
73 ジアルジア症		-	-	-	24
74 侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	2	67	249
75 侵襲性髄膜炎菌感染症		-	-	4	9
76 侵襲性肺炎球菌感染症		2	9	113	934
77 水痘(入院例に限る。)		-	3	36	191
78 先天性風しん症候群		-	-	-	-
79 梅毒		24	135	1,340	7,448
80 播種性クリプトコックス症		-	-	9	91
81 破傷風		-	-	23	44
82 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	-
83 パンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	5	11	73
84 百日咳		-	1	108	419
85 風しん		-	-	4	8
86 麻しん		-	-	7	21
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	3	9
88 新型コロナウイルス感染症 注1)注2)		-	371,198	-	33,778,575

注1) 全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く(2023年5月8日時点速報値))。

注2) 広島市、全国の累積は2020年から2023年5月7日までの合計。